HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	想像都市？ ： そこで活躍する自分を想像できる都市
Author(s)	内田, 純一
Description	第6回観光創造フォーラム関係者会議、コメント
Relation	第6回観光創造フォーラム関係者会議. 平成21年7月19日. 鷲宮町.
Issue Date	2009-07-19
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/39118
Type	lecture
File Information	uchida20090719washimiya.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

© UCHIDA Junichi, 2009

想像都市？：そこで活躍する自分を想像できる都市

北海道大学観光学高等研究センター准教授
内田純一

内田です。私は神奈川県出身ですが、今は北大に勤務しているので北海道に住んでいます。北海道に渡った理由は、かつて外資系保険会社の東京本部に勤めているときに、北海道への転勤の希望を出し、それが認められ、晴れて札幌勤務になったというものでした。

北海道に転勤したかった最大の動機が、テレビドラマの「北の国から」が大好きで、ドラマのロケ地である富良野に聖地巡礼をするどころか、その場所に住んでみたかったのです。もちろん、人事部にはそんなことは言えませんでしたので、勤務先は札幌になったわけですが。

しかし、その後に北海道大学に転職し、いよいよ本格的に北海道に移住してみると、富良野だけを相変わらず好きかというと、少々事情が変わってきました。富良野というより、自分が仕事で関わるようになったいくつかの地域を好きになっていったのです。もちろん今では、富良野とも仕事の上で関わりを持っていますので、北海道に来るきっかけになった地域でもあり、特別に愛着は強いものがあります。

これらのことを突き詰めて考えていくと、もしかすると人間というのは、なんとなく好きな地域であるとか、自分が魅力的だと感じる地域といった判断よりも、自分が活躍の場を見いだせる地域の方を好きになっていくものなのかな、と感じるのです。この認識は、前回に鷲宮に呼んでいただいたときに、らき☆すたファンの方達がたくさん主体的に地域の行事に関わったり、地域の人たちと交流したりしているのを見て、いっそう強くなりました。

つまり、彼らのボランティア精神にあふれる姿勢の背景にあるのは、以前から憧れていた場所を訪れたことに満足しているだけでなく、さらに自分の活躍の場を見出したことにより、より満足度を高めているのではないか、ということです。

整理しますと、地域振興のために外から人を惹きつけるためには、入門編としては、地域の魅力をまずは発信し、広く認識させていくことが大事です。そして次に発展編としては、外から来た人びとをいかにその地域の内に巻き込むか、つまり地域の人びとと関わらせていくか、という点を考慮する必要があるということです。

もしも、フィルムとかアニメを通じたツーリズムが、誘客の次の段階を考えなければいけないとするならば、地域の人達とファンがどのような形で交流したり、関わりを持ったりできるのかについて、議論を重ねていくべきなのでしょう。

（了）